

武石診療所の状況と将来のあり方について（諮問資料）

武石診療所は、昭和 60 年 4 月に開所し、武石地域の一次医療機関として、近隣病院と連携を図りながら地域医療、在宅医療を進めています。また、武石健康センター、デイサービスセンター、特別養護老人ホームなどが隣接し、武石地域の福祉・医療の拠点となっています。

地域の人口減少とともに患者数も減少傾向にあり、患者数の増加策や診療所の役割・業務形態の見直しなどが求められています。地域で一番身近な医療機関として、高齢者のみならず誰もが安心して医療が受けられるよう安定的な医療提供体制を構築していくことが必要であり、診療所のあり方が問われています。

1 武石診療所の概要

(1) 診療科：内科、外科、小児科

(2) 医師（診療所長）：廣瀬 聡 医師（平成 25 年 4 月～）

(3) 診療体制

- ・正規職員：医師 1 名、看護師 4 名、事務 2 名
- ・臨時職員：理学療法士 1 名、事務 1 名

(4) 診療時間

- ・午前：外来診療 午後：往診 ・訪問看護：365 日、24 時間の宅直体制

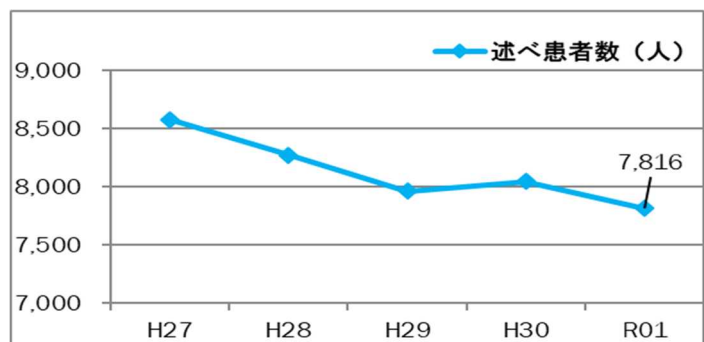


2 診療実績

武石地域は平成 18 年の合併以降少子高齢化が進み、人口は 3,345 人（R2.4）14 年間で 828 人減少し、高齢化率は 37.96% まで上昇している。

独り暮らしで何らかの疾患を抱える高齢者は多く、この傾向は今後も続いていくことが予想されます。

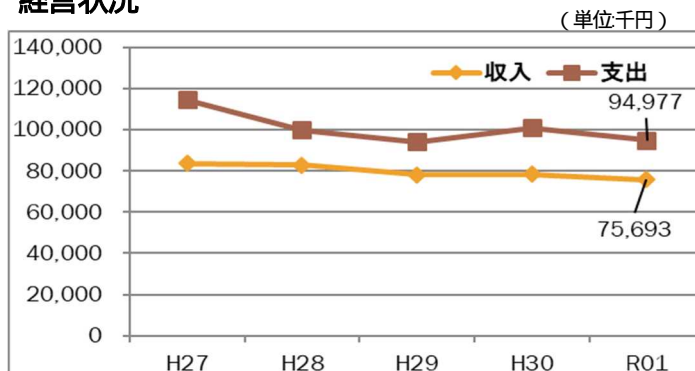
武石診療所の患者数は、武石地域の人口減少とともに減少しており、年間延べ 8,000 人程度の患者数を推移しており、約 8 割は上田市内で、この内 91.6% は武石地域の住民です。



地域別患者数の割合 (R1)

地区	割合
上田市	83.9%
武石	76.0%
丸子	4.5%
上田	3.4%
長和町	12.1%
その他	4.0%

3 経営状況



人口減少などに伴い、患者数、診療報酬ともに年々減少し経営が厳しくなり、基金を取崩して運営しています。

単年度の収支は、基金繰入金と前年度繰越金を含まないと収入に比べて支出が多く、赤字経営が続いています。

(1) 歳入関係 (R1)

令和元年度の歳入総額は 1 億 1,753 万円余で、前年と比べ 213 万円余、3.6%の減収となりました。減収となった主なものは、患者数の減少によります。

また、前年度 (H30) からの繰越金 (423 万円余) も少なかったこともあります。

1 人当たりの収入単価 : 約 7,500 円

	R1 (決算)	R2 (予算)	R3 (予算)	対前年度		
				差引増減	増減率	
予算現額	113,940,000	113,160,000	112,970,000	▲ 190,000	▲ 0.17	
収入済額	117,353,439	113,160,000	112,970,000	▲ 190,000	▲ 0.17	
款別内訳	診療収入	58,041,418	57,252,000	57,252,000	0	0.00
	介護保険診療収入	1,101,562	1,634,000	1,634,000	0	0.00
	使用料及び手数料	671,806	651,000	639,000	▲ 12,000	▲ 1.84
	財産収入	0	0	0	0	-
	繰入金	29,486,000	45,335,000	23,658,000	▲ 21,677,000	▲ 47.82
	繰越金	19,283,492	1,000	15,165,000	15,164,000	1,516,400.00
	諸収入	8,769,161	8,287,000	8,322,000	35,000	0.42
	市債	0	0	6,300,000	6,300,000	皆増
	寄附金	0	0	0	0	-

(2) 歳出関係 (R1)

令和元年度の歳出総額は 9,497 万円余で、前年と比べ 593 万円余 5.8%の減でした。人件費が主となる診療所一般管理費は 7,286 万円余で、前年と比べ、476 万円余 6.1%の減でした。

医薬費は 2,210 万円余で、前年と比べ 117 万円余 5.0%の減でした。こちらは、患者数の減少とともに、医療機器賃借料の減額 (1,322 万円余) によります。

	R1 (決算)	R2 (予算)	R3 (予算)	対前年度		
				差引増減	増減率	
予算現額	11,394,000	113,160,000	112,970,000	▲ 190,000	▲ 0.17	
支出済額	94,977,168	113,160,000	112,970,000	▲ 190,000	▲ 0.17	
款別内訳	診療所費	94,977,168	113,160,000	112,970,000	▲ 190,000	▲ 0.17
	一般管理費	72,869,528	77,878,000	76,947,000	▲ 931,000	▲ 1.20
	(内:人件費)	63,659,699	67,202,000	66,782,000	▲ 420,000	▲ 0.62
	医薬費	22,107,640	32,282,000	34,021,000	1,739,000	5.39
	(内:医薬材料)	17,343,407	24,000,000	20,400,000	▲ 3,600,000	▲ 15.00
	公債費	0	0	2,000	2,000	皆増
	予備費	0	3,000,000	2,000,000	▲ 1,000,000	▲ 33.33

歳出に対して不足する差額分 2,237 万円余を基金から繰り入れて財源調整を行ない、令和元年度は 2,237 万円の黒字決算とし、この金額を令和 2 年度に繰り越すことにしました。

(3) 令和 3 年度当初予算の組み立て

当該年度の歳出総額を見込み、これに見合う歳入を充てています。これまでは、前年度の繰越金を 1 千円 (不確定のため) として予算立てを行ってきましたが、基金繰入だけでは賄いきれないことから、歳入に前年度の繰越金 (R2 : 15,165 千円) を見込んで予算立てを行いました。(R3 : 歳入歳出 112,970 千円と見込) また、コロナ禍により R2 の実績数値が参考とならないことから、R2 当初予算並みの積算となっています。

4 診療所基金の状況

患者数の減少により経営が厳しくなり、合併後の平成19年から基金を取り崩して経営を行なっています。平成23年度からは基金取崩し額が平均して2,000万円を超えており、令和元年度も前年度の繰越金に依りて、2,237万円の取り崩しとなりました。

平成18年度末に2億8千万円余あった基金は、令和元年度末には4,045万円余まで減少しています。

年度	当初 基金額	増加額	減少額	増減額	年度末 基金額
		積立	取り崩し		
S60	0			0	0
H5	22,572,879			2,254,319	24,827,198
H10	160,996,634			41,157,113	202,153,747
H18	262,124,547	21,190,345	0	21,190,345	283,314,892
H19	283,314,892	566,630	8,235,000	7,668,370	275,646,522
H20	275,646,522	1,378,233	2,901,000	1,522,767	274,123,755
H21	274,123,755	411,186	10,016,000	9,604,814	264,518,941
H22	264,518,941	397,000	16,048,000	15,651,000	248,867,941
H23	248,867,941	324,000	23,282,000	22,958,000	225,909,941
H24	225,909,941	294,000	22,812,000	22,518,000	203,391,941
H25	203,391,941			22,987,000	180,404,941
H26	180,404,941			27,402,000	153,002,941
H27	153,002,941			43,191,000	109,811,941
H28	109,811,941			22,587,000	87,224,941
H29	87,224,941			6,146,000	81,078,941
H30	81,078,941	25,000	18,286,000	18,261,000	62,817,941
R1	62,817,941	13,000	22,377,000	22,364,000	40,453,941
R2(見込)	40,453,941	104,000	16,782,000	16,678,000	23,775,941
R3(予算)	23,775,941	3,000	16,543,000	16,540,000	7,235,941

(ふるさと寄附金による基金積立額を除く)

基金については、元金を運用しその運用益を一般会計から特別会計へ繰入れています。

また、一般会計から繰入された同額を特別会計から基金に積立しています。

なお、運営費不足分については、基金を取り崩して特別会計へ繰入れています。

(1) 上田市ふるさと寄附金 R2.8~

持続可能な地域医療・在宅医療を行うため『地域医療・在宅医療応援事業』を新たに設け、財源の確保を図りました。

【令和2年度実績】

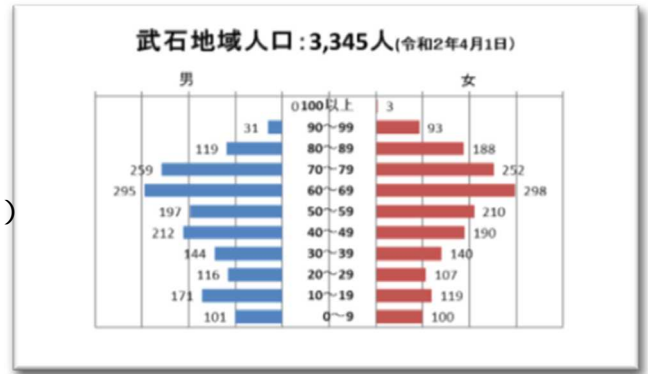
件数：1,973件 金額：37,134千円（金額按分で全体の8.44%） 基金積立：20,634千円

令和2年度末の基金残額：44,409,941円

5 地域の状況

武石地域の人口は、合併当初（H18）4,173人ほどの人口でしたが、平成22年以降4,000人を割り、合併後10年で550人の減少となっています。今後、10年後（R12）には、現在の人口（R2.4：3,345人）の1割が減少し、3,000人程度と推計しています。

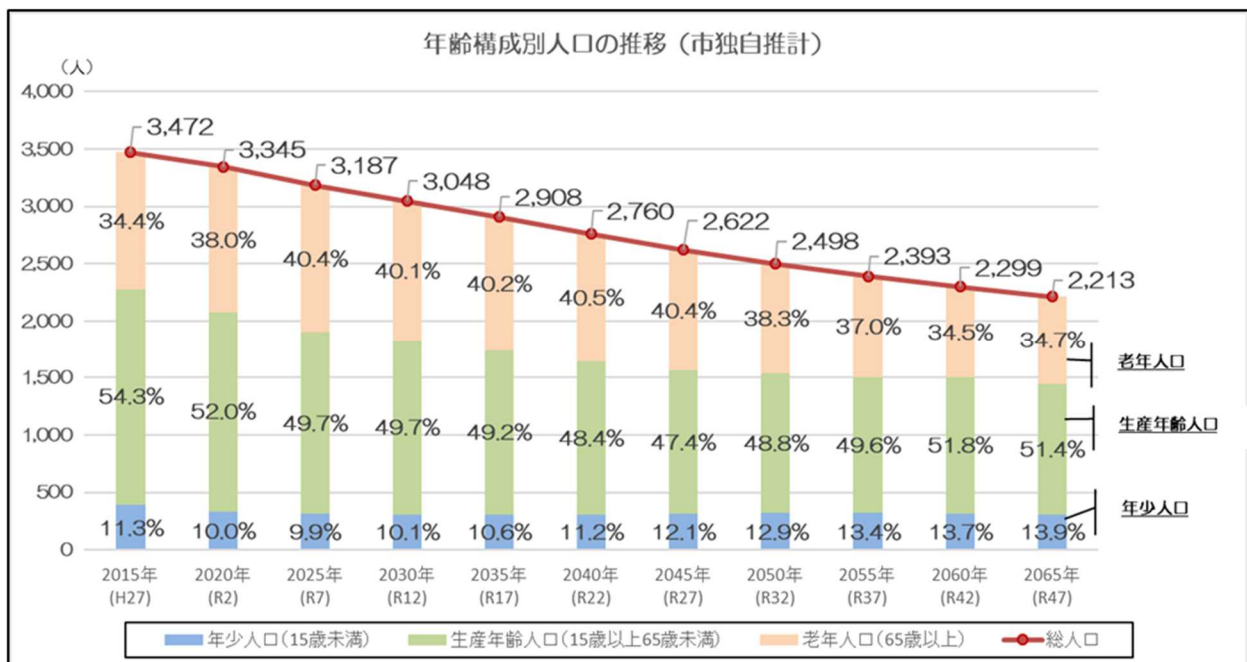
また、武石地域の高齢化率（65歳以上人口の割合）は、市内の他の地域よりも進行が早く、令和2年には37.96%となっており、合併当時よりも10%ほど増加しています。今後も高齢化率は上昇し、令和7年には40%台となり、以降20年間は40%台を推移し、人口の減少とともに低下していく見通しです。



武石地域の人口

(単位：人)

年	人口	増減	増減累計	65歳以上	高齢化率
H18	4,173	-	-	1,201	28.78%
H19	4,129	44	44	1,201	29.09%
H20	4,067	62	106	1,195	29.38%
H21	4,049	18	124	1,213	29.96%
H22	4,005	44	168	1,221	30.49%
H23	3,959	46	214	1,209	30.54%
H24	3,880	79	293	1,189	30.64%
H25	3,799	81	374	1,183	31.14%
H26	3,735	64	438	1,198	32.07%
H27	3,691	44	482	1,224	33.16%
H28	3,623	68	550	1,246	34.39%
H29	3,559	64	614	1,258	35.35%
H30	3,496	63	677	1,261	36.07%
H31	3,426	70	747	1,269	37.04%
R2	3,345	81	828	1,270	37.96%



5 武石診療所の課題

(1) 診療体制

現在、医師1人、看護師4人、理学療法士1人、事務職員3人で診療所を運営しています。医師や看護師の働き方改革や医師が新型コロナウイルスなどの感染症に罹患した際には、診療所を休診しなければならないなど、診療所を一人の医師が担うことには限界があります。また、患者数が減少することは、診療収入にも影響が及ぼすことから、抜本的な経費削減が必要となっています。診療所運営費の6割を占める職員人件費も何らかの検討が必要となっています。

(2) 宅直制度

令和2年9月に実施した市民アンケート調査で、状況に応じた受診医療機関をお聞きしたところ、『夜間・休日の急病の場合』は、5割近くの方が「近隣の総合病院を受診」し、3割の方が「救急車を呼ぶ」に、回答しています。武石診療所と回答された方は、1割に満たなかったことから、24時間365日いつでも対応できる宅直制度について、見直しが必要となっています。

(3) 調剤業務

診療所の調剤業務は、必要な薬剤等を院内に保管し、診察が終わるとすぐに薬の処方をし、患者に渡しています。しかしながら、診療所には薬剤師がおらず、調剤指導も十分とは言えない状況であり、薬品の管理・発注もスタッフの負担となっています。一方で、診療所の患者の8割は高齢者であり、すべて院外処方にした場合には、患者の負担が大きくなります。院内・院外処方の両面を比較検討し、より効率的な診療所運営を検討すべきです。

(4) 医療事務

医療事務は2人の職員が担当しています。1人は会計年度任用職員で、もう1人は市の正規職員です。医療分野では、毎年のように診療報酬の改定があり、その専門性や正確性が求められています。こうしたことから、医療事務に精通した事務職員の雇用と確保が必要です。また、市職員にしてみても、異動による配置換えにより研修等の機会が必要です。

(5) 施設の改修、改築と医療機器の更新

診療所は昭和60年に開所した施設であることから、令和7年には築40年が経過します。令和2年度には「武石診療所施設計画」を策定し、計画的な修繕等による長寿命化を進めています。

また、医療機器の耐用年数は、6年から7年と言われています。診療所にある機器のほとんどは、耐用年数を超えたものであり、故障や修理への対応もできないものもあります。医療機器は、特殊性が高く、また、高額なため、新規の設置や更新などは頻回にはできません。このため、現有する機器の更新には、慎重かつ計画的に行うとともに、近隣の総合病院との連携による診療検査体制の構築も検討すべきです。

(6) 国民健康保険 依田窪病院との連携(統合)

市民アンケート調査では、武石診療所の今後のあり方として、これまでと同様の経営を望む方が6割を超えていますが、2割程度の方が機能の縮小や他の医療機関との統合や機能分担を回答しています。武石診療所の課題、上記(1)から(5)までを検討する上で、また、依田窪地域の医療体制を考える上で、依田窪病院との連携の強化、統合の検討を進める必要があります。

6 武石診療所のあり方について

(1) 考え方

武石地域の人口減少と高齢化、将来推計（10年で人口の1割の減少）を見込み、持続可能な医療サービスの提供をどう整えるかを検討します。

依田窪地域の医療体制を検討する上で、武石診療所の役割を認識するとともに、地域住民の実態や要望を把握します。

総収入から財源補てんとなる基金繰入れと繰越金を除いた、実質単年度収支の状況は、毎年20,000千円の赤字となっている状況を踏まえ、武石診療所のあり方や地域医療・在宅医療に対する関わり方を検討します。

(2) 進め方

地域住民のニーズの把握 令和2年度アンケート調査を実施

将来見通しの把握

- ・人口推計から将来の診療所の運営規模を考察し、診療体制等を検討します。

依田窪病院との検討

- ・依田窪地域の医療体制とそれぞれの役割分担を検討します。
- ・医師・看護師の交流を促進します。
- ・相互診療をする上での課題の把握を行います。

6 スケジュール

月	項目	内容
4月	諮問（4/21）	・地域協議会への諮問
5月	現状と課題分析	・地域の人口推計 ・課題（外部要因と内部要因） ・アンケート調査
6月	依田窪病院との検討	・依田窪地域の医療体制 ・診療所の役割 ・相互診療をする上での課題把握
7月	素案の検討	・短期、中長期的な方向性
8月	答申案の検討	・診療所のあり方
9月	答申	・地域協議会からの答申
10月	市政経営会議に報告 予算編成	・答申をもとに令和4年度予算の編成